

# 令和7年度 学校評価

## 【教育の基本方針】(第2次尼崎市教育振興基本計画)

- 1 個の尊厳や人権の尊重
- 2 未来志向の教育
- 3 家庭・地域社会との連携

[各校の重点取組について]

- ・子ども達がみな仲良く楽しく、安全に過ごせるように努める。 ・学習の基礎・基本の充実と個性・能力の伸長を図る。
- ・地域に親しまれ、地域とともに協働する。

### 学校評価の観点

1 学ぶ力と健やかな体の育成		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得及び、思考力、判断力、表現力を育むとともに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による確かな学力を育成する。 (2) 多様な視点や価値観で物事を見つめる実体験を大切に、課題解決能力を高める学習を充実を図る。 (3) 運動に親しむ習慣づくりを促進し、運動能力向上に努めるとともに、様々な健康課題を踏まえた健康教育を推進する。 (4) 給食の活用等による発達段階に応じた食育を推進するとともに、家庭や地域への理解啓発を図る。		3.0	2
取組	成果	課題と改善策	
・校内研究のテーマ(コミュニケーション能力の育成)のもと、全学級・専科において公開研究授業に取り組む等、授業力の向上を図った。 ・朝読書、昼帯学習(計算・漢字)、週一回の放課後学習、月一回の漢字・計算検定、「学習の手引き」作成と週一回以上の自主学習、これらに全校で統一的に取り組んだ。 ・運動指導員の招聘やなわとび検定の実施等を通して、運動に対する意欲の向上を図った。 ・ランチルーム指導や給食の放送、教室での給食指導等、多様な場において、食育を推進した。	・保護者アンケートでは、「子どもは授業がわかりやすいと言っている」という設問に対する肯定的回答が前年度比で約16ポイント改善した。 ・あまっ子ステップ・アップ調査において、多くの学年・教科で学力低層の減少が見られた。 ・常学習の定着により、基礎的な計算・漢字の書き取り力が向上してきている。 ・学習タイムにあまっ子のプリントを活用したことで、計算や漢字以外の基礎的な内容の学習にも取り組ませることができた。 ・わかば西検定やなわとび検定など学校全体で取り組むものがあって、継続的に頑張ろうとしている姿が多く見られた。	・全国学調では全国比で国語-7pt、算数-11ptと、昨年度から大きく後退した。 ・学年に合っていない学力の児童には、放課後学習において児童の学力に応じた課題に取り組ませることも必要ではないか。 ・これまで様々な手立てを行ってきたが、今後は特に思考力、判断力、表現力を伸ばしていきたい。 ・意識調査では、「進んで運動する」においていくつかの学年で低下が見られた。今後も一層体力向上の取組を推進していく。 ・食育に関する家庭、地域への理解啓発については、一層取り組む必要がある。	

2 多様性と包摂性のある教育の推進		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 支援を必要とする子ども一人ひとりへの多様な教育ニーズに対応するとともに、学校外のグラデーションある学びの場や他機関等との連携を推進する。 (2) インクルーシブ教育の推進と合理的配慮の提供に向けた体制の整備による切れ目のない支援の充実を図る。 (3) 共生社会の実現に向け、違いを認め合い、多様な文化的背景をもつ人々と豊かに共生する心、共に生きようとする意欲や態度を育む。		2.8	3
取組	成果	課題と改善策	
・週3回、校内サポートルームを開設し、不登校傾向にある児童の学習保障とともに、長欠件数の減少を図った。 ・不登校児童等への対応として、関係機関(ほっとすてっぷ等)との連携を図った。 ・特別支援校内委員会において、特別な配慮を要する児童の情報や対応等について校内で共有を図った。 ・多文化共生サポーターや多文化共生支援員と連携しながら、日本語指導を必要とする児童の学習面や生活面等における適応を支援した。	・サポートルームを活用していた児童が、徐々に教室に入る時間が増えてくるケースが見られた。 ・個別の支援計画を作成する中で子どもたちの実態を確認しながらできた。 ・サポートルームやSSW、ほっとすてっぷ、SC、個別の指導計画など、数年前のほとんど活用できていなかった時期に比べると、飛躍的にたくさんのことが整ってきている。 ・校内委員会における情報共有が一層充実し、特別な配慮を要する児童等への理解が深まった。 ・個人懇談の際に、担任が保護者に伝え、SCにつながるケースが増えた。→保護者が子どもの問題と向き合うきっかけになっているのではないかと。	・年間30日以上欠席者数は昨年度と比較するとほぼ横ばいである。 ・サポートルームに入る児童は、どういった児童が対象なのか曖昧になってきているか。本当に必要で効果が見込める児童に提供できているのかを校内委員会等で見直す必要がある。 ・LGBTQや外国籍の児童など、さまざまな面で多様性を受け入れるためにも講演会などを実施してみてもいいのではないかと。 ・特別支援学級の児童や通級・特別支援教育支援員の対象児童について、今後も管理職を含めた学校全体で特性を理解し、支援していく必要がある。 ・外国籍の児童に対して一層支援していく必要がある。	

3 豊かな心の育成といじめ防止の取組		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 人権に関する知的理解と人権感覚の涵養を基盤に、自他の人権を守り、人権課題を解決しようとする実践的行動力を育成する。 (2) 命を大切にすることや思いやりの心、規範意識等の醸成に向け「道徳教育」や「心の教育」やその充実を図るとともに、様々な体験活動を通して豊かな人間性と社会性を培う。 (3) 一人ひとりの違いを認め合う仲間づくりを推進し、道徳科や特別活動、体験学習等を通じていじめの未然防止に努めるとともに、早期発見、早期対応に取り組む。 (4) 尼崎市の歴史や伝統・文化への理解を深めるとともに地域への愛着等、児童生徒の感性を高め、豊かな情操を養う。		2.7	2
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年1回、保護者へ向けた道徳の授業公開を実施した。</li> <li>・先進校の講師を招聘し、道徳の授業や評価に関する校内研修を実施した。</li> <li>・「生命(いのち)を大切にすること」「加害者にならない」「被害者にならない」「傍観者にならない」ための「命の安全教育」を実施した。</li> <li>・学期に一回の生活アンケートを実施し、結果にもとづいて迅速に対応した。</li> <li>・月1回の生徒指導部会において児童の情報や対応等について共有を図った。</li> <li>・市教委の担当指導主事によるいじめに関する校内研修を実施した。</li> <li>・AMATAN事業を通して、歴史的施設の見学を行うこと等により、尼崎市の歴史について学んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然学校を通して自然に触れ、いつもと違う環境で生活するという新しい経験を通して、子ども達が大きく成長した姿が見られた。</li> <li>・ベア学級があることで、縦のつながりができた。</li> <li>・生活アンケートの実施により、早期発見、早期対応につながっている。</li> <li>・毎学期の生活アンケートの実施や日々のいじめの認知によって、重大ないじめを未然に防ごうとする状況が作られている。</li> <li>・いじめの認知を丁寧に行い、事後も丁寧に指導している。</li> <li>・児童アンケートでは、今のクラスで「いじめ」を受けたことがある。の肯定的回答が前年度比約9ポイント減少した。</li> <li>・トラブル、怪我があった際の保護者連絡が細やかにされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベア学級が年数回なので、実施回数を増やして縦のつながりをより充実させてみてはどうか。</li> <li>・道徳の授業公開や人権研修など、校内の取り組みは出来ているが、児童一人ひとりが自他の「命」について大切に出来ているかといった意識等の醸成には至っていないのではないか。</li> <li>・児童アンケートでは、「いじめをしてはいけない雰囲気」がクラスにある」の肯定的回答が前年度比約4ポイント減少した。</li> <li>・背景は特定できないが、乱暴な言葉遣いの児童が気になる。言葉遣いへの指導は課題である。</li> <li>・日々の中で指導はしているが、言葉遣いが悪く、暴言が多い。</li> <li>・完全にいじめを防止できているわけではない。引き続き未然防止・早期発見・早期対応に努める。</li> </ul>	

4 教育環境の整備と教員の育成・勤務環境の整備		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) ICTを活用した更なる多様な学びを実現を目指して、ICTを活用した学習のデジタル化を積極的かつ効果的に推進し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。 (2) 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導力の向上を図る。 (3) 社会的な良識と人権感覚、高いコンプライアンス意識を持ち、子どもや保護者、地域社会から信頼される教員の育成を図る。 (4) 教員の働き方改革を推進するとともに、風通しの良い職場環境づくりを進め、働きがいのある学校園づくりを進める。		2.8	2
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・週に一度は「eライブラリ」で課題を出すとともに、夏休みや自習時間においても積極的に活用している。</li> <li>・先進校の講師を招聘し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進に関する校内研修を実施した。</li> <li>・コンプライアンス(非違行為・情報管理・ハラスメント等)に関して、具体的な事案を踏まえた校内研修を概ね2ヶ月に一回実施した。</li> <li>・月曜17:30定時退勤、木曜ノ一会議デー、年次休暇10日間取得・出退勤システムを活用した勤務時間の適切な管理と状況に応じた職員面談を実施した。</li> <li>・業務改善部会を設置し、木曜日の校時の短縮化や学校ルールブックの改訂等に取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度配備の電子黒板や今年度更新の児童用タブレットがどの学級でも積極的に活用されており、教員の活用スキルも高まってきた。</li> <li>・様々な授業において、ベア・グルーブトークを取り入れる場面が見られるようになってきた。</li> <li>・コンプライアンスに関する校内研修では、ワークショップ形式を取り入れる等、講義形式だけにならないよう配慮されていた。</li> <li>・木曜日が短縮校時になったことで、放課後にする業務に充てる時間が多くなり、教材研究等に充てる時間を確保することができるようになった。また、出張の時は余裕をもって行けるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・eライブラリの宿題では、4択を適当に選んで終わらせることのないように指導が必要。</li> <li>・協働的な学習を通して自分の考えを深めたり広げたりすることについて、これからも研究を進めていく必要がある。</li> <li>・研修や会議が多く、週3回ある時はかなりきつい。</li> <li>・教員不足等により、1人ひとりの業務改善には至っていないように感じる。</li> <li>・クラスルームに載せている内容を職タなどで再度お知らせすることが多い。簡単にお知らせする方がいいが、同じ内容を話すのならクラスルームでの投稿の意味がないように感じる。</li> </ul>	

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
<b>5 家庭地域社会一体となった教育の充実</b>			
(1) コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的推進し、「地域とともにある学校づくり」の実現に向けて取り組む。 (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る。 (3) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る。		<b>3.0</b>	<b>3</b>
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会において、地域の方々とともに創立10周年に関する事等について協議した。</li> <li>地域学校協働活動コーディネーターと連携し、学期に一回、見守り活動会議を実施したり、昔遊び体験学習において地域からゲストティーチャーを招聘したりした。</li> <li>「1. 17は忘れない」防災訓練の実施にあたっては、地域の方にも参加していただいた。</li> <li>警察から講師を招聘し、不審者対応訓練を実施した。</li> <li>1年生では歩行訓練、3年生では自転車教室を実施し、交通安全に関する意識の向上を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期ごとにある避難訓練等を通して、児童だけでなく職員の危機管理意識の向上につながっている。</li> <li>入学式卒業式にはたくさんの地域の方が出席され、関心を持っていただいていることが感じられる。</li> <li>地域のボランティアの方々による登下校の見守り活動や保護者のかかるとも登校等により子どもたちの安全が守られており、登下校中の事故は0であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティスクールをきっかけに、どの学年も学年に応じて地域との連携をしていけるように取り組む。</li> <li>よい子のくらはしは、年度初めに保護者向けにもお知らせしているが、頭髪や持ち物など認識が甘くなっているように感じる。長期休業明けなどは、再度お知らせしても良いのではないかと。</li> <li>本校は周囲を大きな道路に囲まれており、交通安全の確保が恒常的な課題である。関連する様々な取組を今後も継続する。</li> </ul>	

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
<b>教育目標</b>			
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実		<b>2.6</b>	<b>3</b>
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育目標</li> <li>わかるまで自ら学習に取り組む子 思考 判断</li> <li>確かな学力＝自分で考え、解決できる</li> <li>場を清め 協力して活動する子 勤労 協働</li> <li>にこやかに 挨拶と返事ができる子 明朗 礼儀</li> <li>しっかりと食べ 進んで運動に親しむ子</li> <li>食育の充実 体力の向上</li> <li>朝読書、昼帯学習(計算・漢字)、週一回の放課後学習、月一回のわかば西検定(計算・漢字)、「学習の手引き」作成と週一回以上の自主学習に全校で統一的に取り組んだ。</li> <li>体育委員会を中心として、なわとび検定や、わかば西長縄ジャンプ∞(エイト)の取組を実施した。</li> <li>保健だよりや給食だよりの配布により、保護者への啓発を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目指す学校像を達成するために、様々な面で試行錯誤できている。</li> <li>漢字の小テストをこまめに実施し、成果が出ている。→その成果を子どもたちにフィードバックしている。</li> <li>子どもの実態に合わせた学習に取り組ませることはできたが、まだ課題は残る。</li> <li>あまっ子ステップ・アップ調査において、多くの学年・教科で学力低位層の減少が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心、安全な学校の醸成や、児童の学力を定着させるために、職員同士お互いのスキルを伝え合う。</li> <li>子どもたちから挨拶をしてもらうことが少ない。</li> <li>地域の見守り活動の方々に対して等、授業の始めと終わりだけでなく、様々な場面でしっかりと挨拶ができるように引き続き指導する。</li> <li>自分たちの学校を綺麗にすることや使った物をもとの場所に戻すことなどにおいて、課題がある。</li> <li>D層(学力低位層)の児童の底上げを一層図る。</li> <li>黙勤清掃を徹底できていなかった。また、隅々まで清掃ができていない箇所が多かった。</li> </ul>	

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
<b>研究テーマ</b>			
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実		<b>2.5</b>	<b>3</b>
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>国語科「話す・聞く・話し合う」領域を中心とした研究を推進した。研究テーマ「自分の思いや考えを言葉にし、相手と考えを共有する子どもの育成をめざして～みんながつながるコミュニケーション能力を育てる～」</li> <li>子どもの「話す・聞く」意欲を高める題材と学習過程の工夫に努めた。</li> <li>昨年度策定した「話す・聞く・話し合う」系統表と、話し合いの型の活用。</li> <li>朝の会や終わりの会等においてスピーチ活動を取り入れた。</li> <li>「学習のきまり」を教室に掲示し、学習規律とより良い生活習慣の確立を図った。</li> <li>自分から伝えたいという意欲を育む手立てのひとつとして、「自主学習ノート」の取組を進めた。</li> <li>関西大学付属初等部から講師を招聘し、校内研究に関する指導・助言をいただいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員ひとりひとりがテーマを意識して、一授業に取り組んでいることが成果に繋がってきている。学年に応じたコミュニケーションについて意識が高まってきた。</li> <li>各学年でめあてを設定し、めあてを達成するために手立てを考え、実践することができた。</li> <li>1分間スピーチを終わりの会などに実施し、思いや考えを言葉にすることができるようになってきた。</li> <li>連絡帳やスタディプランに1行日記を書き、自分の思いを表現できるようになってきた。</li> <li>話し合い活動(ペアトーク・グループ学習)を意識した授業づくりが定着してきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一授業の事後研を短時間でもいいので実施できるようにしたい。</li> <li>研修等で学ぶことも多くあったが、ペアでの話し合いなどの場面では、課題の残るところもあった。</li> <li>言葉を使って相手に気持ちを伝えることが難しい子ども達はまだまだ苦戦することも多かった。</li> <li>聞くことに課題があり、相手の考えや意図をしっかりと聞く力がまだまだついていない。</li> <li>授業の中で「ふりかえり」の時間をしっかりと確保することで、その時間で何を学び、どのように変容したのかを考えさせることが重要である。</li> </ul>	